

# 里追想

懐古、そして次世代の思い出づくりへ

「里山」それは私たちが古くから親しみ、生活をともにした心の原風景です。

雑木林や水田、ため池では、木々の伐採、農作業など様々な人の働きかけによって、独特の自然環境がつくられてきました。そこは、多種多様な生きものの宝庫であり、私たち人間にとっても自然とふれあえる身近な場所です。

その里山は、過疎化や開発によって、消失、荒廃が進んでいます。

福岡県では、この里山の自然を次の世代に残していくために、まずは里山の魅力を知っていただくことが大切と考え、里山の自然を強く希み、求める「自然希求」の言葉に託しました。



兔追いし かの山

小鮒つりし かの川

夢は今も めぐりて

忘れがたき 故郷

故郷

(詩:高野辰之 曲:岡野貞一)

誰もが知っているこの童謡に、故郷への郷愁をかきたてられる人も少なくないと思います。

民家の裏山には雑木林、麓には田んぼが広がり、小川がその横を流れている。雑木林では虫たちが樹液に集まり、田んぼではカエルの合唱、小川ではホタルが舞っている...子どもの頃に遊んだ思い出が、そんな里山の風景とあいまって、私たちの心に、故郷の情景としていつまでも残っているのではないのでしょうか。

今、里山の魅力が脚光を浴びつつあります。里山を単なるノスタルジーの対象としてではなく、今の子どもたちにも、里山での楽しい思い出を与えてあげることができないのでしょうか。



男の子焼の里(八女郡立花町)

撮影者:甲斐 満男

「100年後に残したい福岡の里地山山フォトコンテスト 最優秀作品」